

## 妹からの手紙

兎玉<sup>こたま</sup>

結<sup>ゆい</sup>

実は、最初は父と母に対して書いていたが、書いているとちゆうに、妹がくれた手紙を読んで妹に対して書いてみようと思った。

「結ちゃん、読んで。」

と、妹は作文を書いている私にとっせん持ってきた。どうせお姉ちゃんの事がきらいとか書いているんだろうという気持ちで手紙を開いた。

手紙には、「ゆいちゃんいつもありがとう。あそんでくれてありがとう。」という言葉の後に、「いつもおこらせてごめんね。いつもおせわになってごめんね。ふざけたりしてごめんね。いろいろしてもらってごめんね。いつもそついちちゃってごめんね。」と、あと五回ごめんねの言葉が続いていた。

私は、ハッとしました。そうぞうもしていない言葉がならべてあって、びっくりしてしました。妹がそんなことを思っていたなんて。

妹は、四さい年下で、ようち園の年長さんだ。四さい年下の

くせに、いつも上から目線で、自分中心で、言う事をちっともきかない。一緒に遊んでいても、いつもとちゆうから口げんかになって、母にしかられるパターンばかりだ。そしていつも母を味方につけるずるい妹だ。好きなどころを見つける方がむずかしいと思ってしまう。

でも、妹がてれくさそうにわたしてくれた手紙を読んで、少しはすかしい気持ちになった。そして、こんなにもいつもけんかしていても、「結ちゃんが大好き」と言ってくれる妹を思い出した。ごめんねという言葉がたくさんあったということは、それだけいつもおこっていたのかなあ。私も妹に対してごめんねという気持ちになった。そして、これからは「ごめん」という言葉より「ありがとう」とたくさん言われるお姉ちゃんにならないと感じた。

今度は、はずかしいけれど、私が妹に手紙を書きたいと思う。「いつもおこってばかりでごめんね。いつも一緒にいてくれてありがとう。」と。